

令和7年度事業報告

I 概要

1. 総括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和7年度末の会員数は264名となり、令和6年度末の会員数269名より5名減となり、年度目標の270名を達成することはできなかった。病气や加齢が原因で退会する会員はもとより、令和7年度は亡くなられた会員も例年になく多かった。また粗入会率も2.37%と、目標値である2.4%を達成することはできなかった。

契約金額については、シルバー人材センター事業は、最低賃金の引き上げ等もあり実績は増加した。労働者派遣事業については、実績は減少したが、総合実績は目標の1億6千5百万円を達成することができた。しかし、シルバー人材センター事業、労働者派遣事業ともに受注件数が減少してきていることが今後の課題である。未就業会員解消、就業機会拡大の各項目については、あと一步のところまで達成できなかった。

毎月第4水曜日に就労相談日を実施しており、相談件数は少ないが、会員の安心材料となっている。

就業機会及び補助金確保を目的とした行政訪問活動を5月と10月に実施した。毎回、行政側には快く対応していただいている。

毎年企画会議が主体となって実施している「仕事始め式」と「安全祈願祭」は、昨年度より参加者も増え、餅つきや赤飯の配布など盛り上がりを見せたが、まだコロナ禍前の出席率には及ばないため、今後も参加を促す工夫が必要と思われる。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点として利用されており、会員の懇親の場として、また伊佐さくら会などの活動拠点としても、重宝されている。

【事業推進委員会】

令和7年5月29日に開催した定時総会は、委任状を含めると240名の参加となったものの、当日の参加者は147名と全体に占める割合は55%程度に留まった。引き続き会員に総会の場に足を運んでいただく方策の検討が必要と思われる。

行政機関との懇話会は、令和7年10月3日、急な公務により橋本市長の出席はかなわなかったものの、田中副市長をはじめ各課長20名、センター役職員32名出席のもと、開催した。行政からの意見要望に加え、会員からの意見要望も例年になく多く寄せられ、有意義な意見交換会となった。

市議会議員との懇話会は、令和7年11月6日に市議会議員12名、議会事務局2名、センター役職員25名出席のもと開催した。会員委員が飾り付けたテーブルの生花や手作り加工部つくしんぼが作った弁当、意見交換も含め概ね好評だったものの、当日及び直前の欠席が懸念材料として残った。

当委員会の担当である苦情処理については、会員の自覚欠如、職務怠慢が招いた苦情、特に公共施設における接客に関する苦情が散見された。接客マナーを中心とした研修が必要と思われる。

利用者アンケートについては、令和7年4月から令和8年3月までの間に、72件の

回答があり、仕事の満足度については、そのほとんどが『満足』との回答であった。引き続き高い顧客満足度を維持することが肝要である。

【組織管理委員会】

会員は地域班及び職域班に属し、センターの基本理念に基づき自主的、自立的な活動を実践している。

会員拡大については、例年と同じく「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会受講者は53名、入会者数は35名となり、入会説明会の改善などで一定の成果を上げることができた。入会説明会については、誰でも進行及び説明が行えるように資料を作成し、委員8名全員が進行及び説明を行った。

年度末の会員数は264名となり、令和6年度末の269名から5名減少した。会員の死亡及び伊佐市外への転居が多かったことや加齢や病気などによりやむなく退会せざるを得ない会員が増えていることなどが主な原因として挙げられる。

入会後には新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明した。また、研修終了後には個別相談を実施した。

管理群、福祉家事サービス群、事務群、派遣会員を対象とした「職域班会員研修」では、外部講師を招いて過去の苦情を基にした対応策や、伊佐市より要望があったカスハラ対策について研修を行い、対象会員の9割が受講した。

役職員独自研修は8月25日(月)に実施し、各委員会の活動状況を周知するため、委員長がそれぞれ活動状況報告を行った。内容がわかってよかったと好評であった。

地区別ボランティア活動については、6月7日(土)に大口地区は大口元気こころ館周辺、菱刈地区はまごし館周辺の2ヶ所に分かれて行い、大口地区33名、菱刈地区32名の参加があった。全体ボランティア活動は、9月20日(土)に針持小学校で行い、会員57名の参加があった。運動場周辺の草刈りや除草、学校入口付近の剪定などを行い秋の運動会を控えた学校側からも大変喜ばれた。また、当日の状況は南日本新聞にも掲載され、シルバー人材センターのPRに一役買った。但し、ボランティア活動への参加者数の伸び悩みが今後の課題となった。

【就業管理委員会】

普及啓発活動については、街頭キャンペーン、広報活動車による広報活動等を継続的に行った。広報車による街頭宣伝活動は毎月実施し、公共施設やコミュニティなどに掲示している入会説明会・就労相談日関連ポスターの貼り替えを行った。特に10月の普及啓発促進月間においては、通常巡回していないコミュニティも訪問し、ポスターの掲示をお願いした。また月間中は全会員によるチラシ配付活動を実施した。

地域住民への普及啓発及び理解を深めることを目的とした『伊佐シルバー祭り』を令和7年11月22日に開催し、式典・展示販売及びグラウンドゴルフ大会を実施した。アトラクションの効果もあり、昨年度より多くの地域住民の参加があった。しかし会員の参加者は昨年度より減少した(参加人数：一般201名、会員97名)。また手作りの昼食サービスも実施し、盛況であった。

施設管理群の就業ローテーションも引き続き取り組んだ。

植木剪定スクーリング初級コースでは、一般市民に対して剪定に関する知識や技術を習得してもらうことでシルバー人材センターの魅力をアピールし、同時に入会勧奨を行った。また中級コースでは、より専門的な講義を実施し、会員の技術向上、剪定

班の戦力アップを図った。

事業実績については、昨年度より会員数及び契約金額ともに増加した。また、『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置されている事業コーディネーターが定期的に就業開拓等の活動を行い、センター事業の理解及び浸透を図った。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉・家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。

福祉・家事援助サービスの主な受注は、高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースもある。また長寿介護課の生活支援サービス事業や、地域振興課のふるさと納税返礼品（親孝行支援サービス）による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大につながるよう、会員の協力と資質の向上が求められる。発注者と「よい人間関係をつくること」がサービスの基盤となるため、綿密なコミュニケーションと過不足のない対応が不可欠である。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和7年度も引き続き、読み・書き・計算や、月1回の健康体操とレクリエーションを行った。例年通りのレクリエーションに加え、グラウンドゴルフを実施したりと「勉強ばかりでなく皆で楽しい事を」という受講生の要望を取り入れた。また教室は、毎回道具等のアルコール消毒・マスクの着用などの感染症予防対策を行ったうえで実施した。

[頭の体操教室受講者実施状況]

実施校区	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	39人	37人	40日	1,336人
ひしかり	14人	14人	40日	494人
やまの	10人	8人	40日	274人
ほんじょう	13人	13人	40日	414人
はつき	15人	13人	40日	485人
合 計	91人	85人	200日	3,003人

介護予防事業については、大口地区2回、菱刈地区2回の計4回開催し、良い評価を頂くことができた。

[介護予防事業実施状況]

実施日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
5月21日(水)	こころ館	認知症サポーター養成講座	6人	21人
8月29日(金)	まごし館	歌・体操・スカットボール	10人	9人
10月31日(金)	こころ館	エンジョイニングゲーム	13人	22人
1月23日(金)	まごし館	歌・体操・輪投げ	14人	9人

子育て支援事業は、市委託事業である『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』

を軸に、地域や学校の協力のもと実施している。季節ごとにイベントを取り入れ、充実した活動を行うことができた。しかし、会員の危機管理不足に起因する事件や、学校との連携不足などの問題も発生したため、安全な見守りや声掛けの方法等を学ぶ機会を持つことが今後の課題である。

[放課後児童健全育成事業実施状況]

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	290日	16人	7.8人	2,276人
羽月児童クラブ	290日	44人	23.1人	6,706人

講習会については、料理講習会を2回と子育て支援講習会を2回開催することができた。就業機会の拡大や会員のスキルアップにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

[講習会実施状況]

講習会	実施日	実施内容	参加状況	
			一般	会員
料理講習会	7月18日	冷やし中華	6名	6名
	12月5日	鹿児島のお雑煮、お正月料理	10名	5名
子育て支援講習会	6月30日	支援員と子どもとの関わり方	2名	10名
	11月21日	多動児への接し方	1名	7名

普及啓発活動については、伊佐ふるさとまつりと春フェスにおいて、委員によるチラシの配布を行った。事業所訪問についても計画通り実施した。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、普及啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、販売数量増加に伴い、売上金額は前年度を上回った。

しめ縄事業は、昨年度より売上金額が微減したものの、会員のこれまでの経験と技術の研鑽により、品質の良いしめ縄を販売することが出来た。

シルバーふれあいショップは、徐々に来客数が増加しており、売上は少しずつ伸びてきている。

ふれあいサロンは、特定された人に限らず、新たな地域のお客様や会員同士の憩いの場として居心地の良い場所を提供することができた。

手作り加工部つくしんぼは、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組んだ。特に季節限定販売のあくまきや正月用餅の売上は好調だった。

刃物研ぎ事業は、概ね順調な活動により昨年度の取扱数量と売上額を上回った。

製炭事業は、大島作業所での体験講習会を2回に分けて実施した。門松で使用した竹を材料として実習を行い、質の良い竹炭を生産することができた。

新たな試みとして、まだ収益化はできていないものの、キノコ類の栽培を開始した。

上記以外の事業は、大きな活動は出来ていない状況である。

総括すると、独自事業での就業を通じて地域社会に貢献することを目標に、製造技術の向上や販売促進等に取り組んだ結果、全体として良好な取扱数量と売上額であった。

【安全委員会】

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。

昨今の異常気象による熱中症対策として一般作業班及び剪定班に熱中症指数計を配付した。

隔年開催の安全就業大会や安全講習会を開催し、安全就業に対する意識の向上に努めた。機具取扱講習会、車両安全運転講習会は実技を中心とした内容を実施し会員より好評を得た。また、救急講習会は運営方法を見直し、交通安全キャンペーンは警察署からの要望を受け、案内看板を設置したり、寒い時期を避け1月から11月に開催時期を変更するなど、前回の反省を生かし改善を行った。

しかし、今年度は過去8年間で最も事故が多発した年となったため、緊急安全集会や抜き打ちでのパトロールの実施、安全就業だより号外の発行などの対策を講じた。

過去5年度間の事故発生件数

事故 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
3年度	3件	4件	7件
4年度	7件	8件	15件
5年度	3件	9件	12件
6年度	6件	7件	13件
7年度	9件	12件	21件

2. 理事会 令和7年度の理事会は、6回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での十分な協議により、理事会運営の強化も図った。

3. 組織活動

(1) 地域班

地域班において、センターだより「シルバー伊佐」、就業や安全、講習会の案内などの充実した情報が毎月定期的に会員へ届けられるシステムは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。

(2) 職域班

センターが請けた就業依頼を、班長が会員に自主的に伝達、調整する班運営も確立しており、世話人・班長の日頃の努力によるものが大きい。班長の高年齢化や会員からの要望を受け、班長の定年の引き上げを実施した。また、今年度実施した研修は、次のとおりである。

① 職群別会員研修

② 新入会員研修

4. 安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

- (1) 安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底
- (2) 安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施
- (3) 交通安全キャンペーンによる交通安全及びセンターの普及啓発
- (4) 交通安全に関する講習会の実施
[車両安全運転講習会]
- (5) 安全就業に関する講習会の実施
[機具取扱講習会、救急講習会]
- (6) 安全就業大会、安全講習会の実施
- (7) 緊急安全集会の実施

5. 普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

- (1) 集客場へのパンフレット等の配置
- (2) 地域施設等への広報（入会説明会・講習会日程等）
- (3) 広報車による普及啓発活動

6. 福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス群としては、市の委託事業を中心に様々な事業に取り組んだ。感染予防に配慮しながら一定の活動が行えた。

- (1) シルバーハウジング（高齢者住宅等安心確保事業）の実施
- (2) 頭の体操教室（認知症予防事業）の実施
- (3) 児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の実施
- (4) ほほえみ会定例活動の充実
- (5) 講習会の実施（料理講習会，子育て支援講習会）

しかし、家事援助サービスについては就業会員が少ないことから、会員の獲得が緊急の課題である。今後も普及啓発活動に力を入れていく。

7. 独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

- (1) 独自事業実施状況

① 門松製作事業	② しめ縄製作事業
③ 花卉・園芸栽培事業	④ 製炭事業(木炭・竹炭)
⑤ シルバーふれあいショップ	⑥ 刃物研ぎ事業
⑦ 手作り加工部つくしんぼ	⑧ ふれあいサロン
- (2) 講習会等実施状況

① わら細工講習会	② 刃物研ぎ講習会
③ 製炭講習会	④ 氏神用しめ縄講習会
⑤ 花卉・園芸講習会	